

徳田 行延とくだ ことえん



西武文理大学 学長

4月1日付で徳田行延サービス経営学部教授が学長に就任した。

新学長は1960年生まれ。明治大学卒業、明治大学商学研究科博士前期課程修了、明治大学大学院商学研究科博士後期課程を満期退学。森川八洲男博士に師事。専門は会計学、特に金融派生商品の会計を中心とした財務会計。近年は、本学サービス経営学部が対象とするホスピタリティ会計論のうち、イールドマネジメントの研究を行っている。

教育面では、文部科学省「大学生の就業力育成支援事業『経験値からのサービス産業就業力育成』——シミュレーション・マインドからエンピリカル・バリューへ」の取組担当者を務め、その成果から、本学のカリキュラムの特徴の一つ、講義と体験を繰り返して学ぶサンドウィッチ学習を組み立て、産学連携PBL型の体験学習の開発を行い、サービス経営学部における実学教育の基盤を現代的に再形成した。

新学長は本学の教育の特徴である実学教育とホスピタリティ教育のもと、学習者の学習権を尊重し多様性を保障するための実践を教育の柱としている。学習者が主体的、協動的、そして創造的に学ぶべく、教育・研究の質を高めていきたいと考えている。学生の起業支援や地域連携・産学連携による大学の新たなビジネスモデルの創出に意欲的に取り組む姿勢を示している点も期待される。

新井 一あらい はじめ



順天堂大学 学長

木南英紀学長の任期満了に伴い、新井一医学部教授が4月1日付で新学長に就任した。任期は4年。

新井新学長は1955年東京都生まれ。1979年順天堂大学医学部卒業。順天堂大学医学部脳神経外科に入局後、助手・講師・助教授を経て2002年に同大学医学部教授に就任。2008年順天堂医院院長、2011年大学院医学研究科長・医学部長を歴任し、現在に至る。

専攻分野は脳神経外科学。小児脳

神経外科、頭蓋底外科、脳微小解剖、水頭症などを専門とし、新たな手術法の開発などに従事してきた。また、水頭症に関しては、臨床のみならず基礎的研究を通じて、難治性疾患である特発性正常圧水頭症の病態解明に大きな貢献をした。

順天堂大学は、本年度創立178年を迎えた。幕末、全国各地より蘭方医学者が下総佐倉に参集し、「日新の医学、佐倉の林中より生ず」と今も語り継がれるように、西洋医学研究・教育、臨床医学の実践の場として出発した。学是「仁」を掲げ、「不断前進」の理念のもと、今日までに5学部、3大学院研究科、6医学部附属病院（総病床数3230）からなる健康総合大学・大学院大学へと発展した。教育・研究・医療を通じて、国際レベルの社会貢献と人材育成を進めている。

中山 洋司



恵泉女学園 学園長

松下俱子前学園長退任の後を受けて、4月1日付で中山洋司が学園長に就任した。

中山新学園長は1944年生まれ。

横浜国立大学を卒業し、聖園女学院高等学校教諭として勤務後、藤沢市立小学校の教諭として10年勤務。その後、横浜国立大学教育学部（現・教育人間科学部）附属鎌倉小学校教官、藤沢市教育委員会、神奈川県教育委員会、藤沢市立小学校の校長を経て、1998年から平和学園小学

校長・幼稚園長、アレセシア湘南中学校長、平和学園学園長を歴任。また、関東学院大学でも非常勤講師を務め、幼小中高大、私学・公立（市県国）の各教育機関勤務という幅広い教育経験を持つ。

恵泉女学園は1929年に河井道によって創設された学園で、恵泉女学園中学・高等学校、1988年に開学した恵泉女学園大学を擁する。学園の創設時から「聖書」「国際」「園芸」を科目として加え、キリスト教精神に基づき、平和のために貢献できる自立した女性の育成を目指して、教育活動を展開している。

中山新学園長は、50年にわたる教育経験から「人間として自立（律）するには学力と人間力を兼ね備えることが必須である。しかし、学生・生徒が自分の力だけで学び続け、自立（律）していくことは困難であり、教育はそこに支援の手を差し出し自立（律）を促すこと」と自身の教育観を語る。

松原 康雄



明治学院大学 学長

鶴殿博喜前学長の任期満了に伴い、新学長に松原康雄社会学部教授が選出され、本院チャペルでの就任式を経て4月1日に就任した。任期は2020年までの4年間である。

松原新学長は1951年東京都生まれ。1975年日本社会事業大学卒業、1980年明治学院大学大学院社会学研究科（社会福祉学専攻）博士後期課程単位取得退学。

本学には、1979年に社会学部助手として着任し、専任講師、助教

授を経て1993年に教授。これまで社会福祉学科主任、入試センター長、社会学部長、副学長を歴任。

専門は児童福祉論であり、多数の著書、論文を発表している。主な著書には『少子化時代の児童福祉』（放送大学教育振興会）、『児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度』（ミネルヴァ書房）、『母子生活支援施設——ファミリーサポートの拠点』（エイデル研究所）などがある。子ども家庭福祉学会会長、厚生労働省の審議会専門部会委員長を務め、児童福祉行政への貢献も大きい。

明治学院大学の歴史は、宣教師で医師のJ・C・ヘボンが幕末に創設したヘボン塾以来、キリスト教主義に基づく人格教育を建学の精神として、153年目を迎えた。近年は、『Do for Others』を合言葉に、学生のボランティア活動も盛んである。明治の四つ目の半世紀に道を拓く新学長に、大きな期待が寄せられている。

牧野 丹奈子



桃山学院大学 学長

大阪大学博士（経営学）取得。2008年経営学部長、2013年にも再び経営学部長に就任した。

新学長は、特に実践教育に対して力を注ぎ、学生の積極性を引き出すことには定評がある。これまでの教育経験を生かしながら、桃山学院大学の教育ビジョン「地域で、世界で、人を支える」の実現に向けて、既に複数の具体策の検討をスタートさせている。

桃山学院大学では、初の女性学長として牧野丹奈子教授が5月、学長に就任した。牧野学長は1961年東京都生まれ。1984年大阪大学工学部環境工学科卒業、1986年大阪大学大学院工学研究科前期課程修了（環境工学専攻）。1986年株式会社東洋情報システム（現TIS株式会社）に入社し、1990年に桃山学院大学経営学部助手、1991年専任講師、1997年助教授、2003年教授に就任。2004年

現在の専門は社会ビジネス。ビジネスにおける社会性と事業性の両立について研究しており、大学経営における社会性と事業性の関係についても持論がある。

趣味は学生と語らうこと。土日や夜間も学生とメールをやりとりすることが多い。学生の成長を見る、ことが一番の楽しみという。

西本 照真



武蔵野大学 学長

研究の経験がある。

日本印度学仏教学会、東アジア仏教研究会などに所属し、中国仏教研究者として学界をリード。中国仏教の一宗派である三階教研究の第一人者である。著書は『三階教の研究』『華嚴経』を読む』など多数。

武蔵野大学は、本年4月開設のグローバル学部を含む9学部16学科、学生数8000人を超える総合大学として発展を続けている。また、本年4月、新ブランド「世界の幸せをカタチにする」(Creating Peace & Happiness for the World)を宣言し、2024年の創立百周年に向けて、幸せ響創大学の実現を目指している。

西本学長は、学長のガバナンスを強化し改革をスピーディーに進めるため、「教育改革推進会議」を創設し、建学の精神の具現化、教育の質の充実、国際化の推進などを意欲的に進め、大学の発展に尽力している。

齊藤 昇



立正大学 学長

山崎和海前学長の任期満了に伴い、4月1日から3年間の任期で、第34代文学部長の齊藤昇教授が立正大学第33代学長に就任した。

齊藤新学長は1956年、山梨県生まれ。立正大学大学院文学研究科博士後期課程英文学専攻を満期退学し、1988年、教養部助教教授を経て、1994年に同教授、1995年に大学改組に伴い文学部教授となり、現在に至る。2013年からは文学部長を務めた。学位は博士（文

学）。

専門分野はアメリカ文学、特にワシントン・アーヴィングやO・ヘンリーの研究を専門としている。『スケッチ・ブック 上・下』（岩波文庫）などの翻訳書をはじめ、『郷愁の世界——ワシントン・アーヴィングの文学』（旺文社、1993）、『最後の一葉』はこうして生まれた——O・ヘンリーの知られざる生涯』(角川学芸ブックス、2005) など多数の著書を執筆している。また、日本ソロー学会などの会長の重責を担うとともに、北海道新聞書評委員、NHKカルチャーラジオ講師など、社会的活動も多く行ってきた。

齊藤学長は、立正大学の歴史と伝統への敬意・理解や、一人一人の意見を尊重する懐の広さを持ちながら、新たな挑戦・改革を成し遂げていく強い意思を持っており、未来に向けて立正大学の理想の姿を作り上げていくことを大いに期待されている。

田畑 邦治



白百合女子大学 学長

山内宏太郎前学長の任期満了に伴い、4月1日付で就任。田畑学長は1947年北海道函館市生まれ。上智大学大学院哲学研究科（修士課程）修了。上智大学中世思想研究所職員、筑波大学非常勤講師などを経て、1976年聖母女子短期大学専任講師、1990年同教授、2000年白百合女子大学文学部宗教科教授。2003年からNPO法人生と死を考える会理事長。2007年から2013年まで、日本カトリック教育学会

会長。専門は倫理学、宗教哲学、特に日本人の死生観。

本学の設立母体であるシャルトルの聖パウロ修道女会は17世紀にフランスに誕生し、現在では世界各国で教育・福祉を中心に献身的な活動を行っている。その基本精神は、聖パウロの言葉「すべての人に対してすべてとなる」(新約聖書Iコリントの手紙、9・21)である。これはすべての人を兄弟姉妹として尊重し、その一人一人のニーズに応えることを目指す、キリスト教の普遍的な精神を表すもので、新学長もこの精神の今日的な意義を痛感して、教育・研究・経営の場面に生かしていくこうと述べている。

主な著書は『出会いの看護論——人間の尊厳と他者の発見』、『新訂ケアの時代を生きる』、『悲しみを支える言葉——古事記から芭蕉まで』。最近著『心豊か』に生きるヒントは古典にあり。』。

なごおのりあき 永尾 教昭



天理大学 学長

飯降政彦前学長の退任に伴い、3月26日付で学長に就任した。

永尾新学長は、1956年京都市生まれ。天理大学外国語学部フランス学科卒業後、1984年から天理教の海外伝道拠点「天理教パリ出張所（現・ヨーロッパ出張所）」および日本文化普及のための高等教育機関「天理日仏文化協会」の運営に携わった。1995年同所長に就任。その後、2009年の帰国まで、東西ドイツ統合、EU設立など激動の欧州

に身を置いた。所長在任中に推進した天理大学と天理日仏文化協会との提携により、2010年両者間に学術交流協定が調印され、天理大学パリ分校が誕生するに至った。

また、ローマ教皇庁や在家信者団体が主催する諸宗教対話に天理教代表団として参加するなど、相互理解のための宗教間対話に尽力した。

さらに、柔道大国フランスと、同じく柔道が盛んな天理市との親善にも力を注ぎ、多くのフランス人柔道家を天理市に送り、またフランスを訪れた日本の柔道家や選手らの世話を行った。それら交流史については、近著『雪に耐えて梅花潔し』（天理教道友社、2015年）に詳しい。

永尾新学長は、第10代学長にして初めての天理大学卒の学長である。在欧25年の国際感覚とキャリアをフルに発揮し、国際社会で活躍する人材の育成に取り組み、2026年の創立100周年に向けた飛躍を目指す。

おいけまほろ 尾池 守



石巻専修大学 学長

坂田隆前学長の任期満了に伴い、4月1日付で尾池守理工学部教授が第5代学長に就任した。任期は3年。

尾池新学長は1954年群馬県生まれ。1982年東京工業大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。工学博士。同年航空宇宙技術研究所（現・宇宙航空研究開発機構）研究員。H-IIロケットの液体ロケットエンジンの開発研究に従事した後、1997年東北大学流体科学研究所助教。2002年石巻専修大学理工

学部教授、2015年同大学院理工学研究科長に選出され、1年間務める。専門は流体力学、航空宇宙工学、トライボロジー。

石巻専修大学は、1989年に理工学部と経営学部の2学部5学科で開学。2011年3月11日の東日本大震災では学内の人的・物的被害が少なく、地域住民の避難場所として、また1000人以上が集うボランティアセンターとして復旧・復興に貢献した。2013年には、復興を担う人材の育成を目指して人間学部を新設。2018年に創立30年を迎える。

建学の精神「社会に対する報恩奉仕」と21世紀ビジョン「社会知性の開発」をふまえ、輩出した人物像として「社会の諸問題に、自分の役割を自覚して取り組むために、生涯にわたって学び続けることができる人」を設定し、教育・研究の強化を進めている。

坂井東洋男 追手門学院大学学長。京都大学大学院文学研究科文学修士。京都産業大学学長、学校法人京都産業大学評議員、理事などを歴任。専門は中国近現代文学。

川名明夫 拓殖大学学長。'71東京大学大学院工学系研究科修士課程修了、工学博士。N Tに入社後、'99より拓殖大学教授。'11同大学副学長、'15より現職。

岡崎仁昭 自治医科大学医学部医学教育センター長、教授。'84自治医科大学医学部卒。'92同大学医学研究科修了、医学博士。'93から同大学内科学講座勤務。'08より現職。

高木康 昭和大学学長補佐、医学部医学教育学教授、医学部卒後臨床研修センター長。'76昭和大学医学部卒。'80同大学医学部大学院修了、医学博士。'02から現職。

高松研 東邦大学医学部長、教授。'82慶應義塾大学医学研究科修了、医学博士。'88スタンフォード大学医学部助手、'91東邦大学医学部助教を経て現職。

吉岡俊正 東京女子医科大学理事長、学長。'79北里大学医学部卒。バンダビルト大学小児科助教、女子医大医学教育学教授などを経て現職。西太平洋地区医学教育連盟会長などを歴任。

吉田栄司 関西大学副学長、法学部教授。'84京都大学大学院法学研究科単位取得退学。京都大学助手、新潟大学講師を経て関西大学に着任。主著『憲法的責任追及と制論Ⅰ、Ⅱ』など。

木暮健太郎 杏林大学総合政策学部准教授。東海大学大学院政治学研究科博士課程後期満期退学。三鷹市、八王子市、羽村市を中心に、選挙啓発や地域活性化の活動に関わる。

井田正道 明治大学政治経済学部教授。専門は政治学(政治意識論)。著書は『世論調査を読む——Q & Aから見る日本人の「意識」』(明治大学出版会)など。

岡田隆 学校法人松山大学理事、評議員、総務部長。松山商科大学(現松山大学)人文学部英語英米文学科卒。

梅村治明 豊田市選挙管理委員会事務局書記長。

檀田松鑒 国際大学理事長。東京大学工学部卒。'67三井物産株式会社入社。同社代表取締役社長、取締役会長を経て、'15から顧問。経団連副会長、日銀参与などを歴任。

大場淳 広島大学高等教育研究開発センター副センター長。准教授。専門は高等教育論。『組織としての大学…役割や機能をどうみるか』(共著、岩波書店、2013年)など著書多数。

高祖敏明 上智学院理事長。'76上智大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程満期退学。教育学専攻。文学部長などを経て'99より現職。共著『教会と学校での宗教教育再考』ほか。

杉本和弘 東北大学高度教養教育・学生支援機構教授、教育評価分析センター長。'99名古屋大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士(教育学)。

佐野浩一 学校法人大阪医科大学常務理事、大阪医科大学医学部教授。'84大阪医科大学大学院医学研究科単位取得退学。医学博士。'03理事、'05看護専門学学校長。'13から現職。

岡本史紀 おかもとしき 芝浦工業大学名誉教授。'68早稲田大学理工学部卒。工学博士。同大学常務理事、デザイン工学部長などを歴任。著書『私学の再生経営』ほか。

今井福司 いまいふくじ 白百合女子大学基礎教育センター准教授。東京大学大学院教育学研究科博士課程単位取得退学。博士（教育学）。東京大学。主著に『日本占領期の学校図書館』がある。

末廣 昭 すえひろ あき 学習院大学国際社会科学部教授。経済学博士（東京大学）。アジア経済研究所、東京大学社会科学研究所をへて、'16より現職。主著『新興アジア経済論』など。

原田規枝子 はらできこ 東洋学園大学学長。'69明治大学大学院文学研究科修士課程修了。'02東洋学園大学現代経営学部教授。東洋女子短期大学学長、東洋学園大学副学長を経て'14より現職。

桜間裕子 さくらま ゆうこ 順天堂大学女性スポーツ研究センター事務局。'95筑波大学体育専門学群卒。福島県立湯本高校教諭、日本パラリンピック委員会などを経て、'11より現職。

朴 大栄 ぼく ていよう 桃山学院大学経営学部教授。'78神戸大学大学院経営学研究科博士課程単位取得退学。広島経済大学を経て、'90から現職。主編著『監査法人の独立性と組織ガバナンス』など。

浅野昭人 あさのあきと 立命館大学学生部次長。立命館大学政策科学研究科博士前期課程修了。'89立命館に入職。教学部次長、キャリアセンター次長などを経て現職。

高橋尚子 たかはし なおこ 中学から陸上競技を始め、大阪学院大学卒業後に実業団へ。'00シドニー五輪女子マラソン金メダル、国民栄誉賞受賞。'01ベルリンマラソンで世界記録（当時）を樹立。JOC理事、日本陸上競技連盟理事、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会アスリート委員会委員長、JICAオフィシャルサポーターなどとして活躍中。

山岡三子 やまおか みこ フリーアナウンサー。学習院大学卒。立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士後期課程修了。博士（社会デザイン学）。名古屋短期大学客員教授。

一般社団法人日本私立大学連盟 新役員選出される

役員の任期満了に伴い、平成28年度第1回定時総会（2016年6月21日開催）において理事、監事の後任者の選考が行われ、新たな理事、監事が選出されました。

その後、理事会において会長、副会長および常務理事をそれぞれ決定し、会長には、鎌田 薫（早稲田大学・総長）が、副会長には、村田 治（関西学院・大学長）ならびに吉岡知哉（立教学院・大学総長）が選出されました。

《会 長》		鎌田 薫	早稲田大学 総長
《副会長》		村田 治	関西学院 大学長
《常務理事》		吉岡 知哉	立教学院 大学総長
《理事》		三木 義一	青山学院 大学長
		酒井正三郎	中央大学 総長・大学長
		松岡 敬	同志社 大学長
		田中 優子	法政大学 総長
		早下 隆士	上智学院 大学長
		楠見 晴重	関西大学 大学長
		清家 篤	慶應義塾 塾長
		日比谷潤子	国際基督教大学 大学長
		土屋恵一郎	明治大学 大学長
		大塚吉兵衛	日本大学 大学長
		佐藤 和人	日本女子大学 理事長・大学長
		吉田美喜夫	立命館 総長・大学長
		小野 祥子	東京女子大学 大学長
		高橋 裕子	津田塾大学 大学長
		川井 伸一	愛知大学 理事長・大学長
		栗田 充治	亜細亜学園 大学長
《監 事》		山口 政俊	福岡大学 大学長
		井上 寿一	学習院 大学長
		湊 晶子	広島女学院 院長・大学長
		吉沢 英成	甲南学院 理事長
		赤坂 博	京都精華大学 理事長
		村上 宏之	松山大学 理事長・大学長
		ミカエル・カルマノ	南山学院 大学長
		植木 實	大阪医科薬科大学 理事長
		戸部 順一	成城学院 大学長
		K・J・シヤフナー	西南学院 大学長
		岡崎 淑子	聖心女子学院 大学長
		日高 義博	専修大学 理事長
		松本 宣郎	東北学院 理事長・大学長
		松前 義昭	東海大学 理事長
		岩本 繁	東京経済大学 理事長
		榊 裕之	トヨタ学園 大学長
《参 与》		松原 康雄	明治学院 大学長
		赤松 徹真	龍谷大学 大学長
		市川 太一	修道学園 大学長
		天野 紀明	早稲田大学 総長室副室長

（任期は2018年6月定時総会終結時まで）

会長の動き 2016年 5月～6月

● 5月10日(火)
第2回理事会に出席

● 5月20日(金)

全私学連合代表者会議、「私学振興協議会」に出席

「私学振興協議会」では、清家篤全私学連合代表(当連盟会長)から、余震が続く平成28年熊本地震について、「学生、生徒の生命や安全に関しては国公立間の格差があつてはならないこと」、および「私立学校の耐震化に対するこれまで以上の支援」、「今回の震災で子どもたちが進学を断念したため、今後の配慮」を求めた。

その上で、私立大学に共通する当面の課題として、主に①私立学校施設耐震化支援の大幅な拡充、②私学助成のさらなる拡充、③日本私立大学団体連合会会長の立場から、大学教育の質的転換のための基盤的経費の確実な措置・拡充、④学生の修学上の経済的負担に対する支援(授業料減免や給付型奨学金の創設など)の4点を要請した。

● 5月31日(火)
第2回常務理事会、第3回理事会出席

● 6月21日(火)

第4回理事会、第1回定時総会出席
会長に鎌田薫(早稲田大学総長)が選出された。

● 6月29日(水)

日本私立大学団体連合会・役員会、総会に出席

【全私学連合(全私連)】

私学団体相互の提携協力によって私学の振興を図り、もって文化の昂揚に寄与することを目的に1955年6月に設立。

私立大学団体連合会、日本私立短期大学協会、日本私立中学高等学校連合会、日本私立小学校連合会、全日本幼稚園連合会の5団体により構成。

【私学振興協議会】

全私学連合構成5団体の代表と自由民主党の文教関係議員(文部科学大臣関係者・部会長経験者)が、今後の私学振興策などについて意見交換する場として2013年に発足。

【日本私立大学団体連合会(私大団連)】

私立大学における教育研究の振興発展への寄与を目的として、1984年4月に設立。一般社団法人日本私立大学連盟および私立大学協会により構成。

開催報告

● 2016年6月18日(土)

「FD推進ワークショップ」【専任教職員向け】開催

「教学マネジメントとFD・SD」協働を軸とするFDの新たな潮流」をテーマに、TKP市ヶ谷カンファレンスセンター(東京都千代田区)にて開催。35大学から58名の教職員の参加があった。

● 2016年7月2日(土)～3日(日)

【第1回学長会議】開催

「多様な私立大学とその教育の質保証」をテーマに、ANAクラウンプラザホテル神戸(兵庫県神戸市)にて開催。63大学65名の参加があった。

私大連盟公式Facebookページ

公式Facebookページ (<http://www.facebook.com/shidairen>) を開設します。

次号「大学時報」の進捗報告や『私立大学フォーラム』などの無料イベントに関するご案内など、ここで見られる情報も発信しています。



教育の明日を探る

日本私立大学連盟では、当法人の活動、私立大学の教育研究、管理運営などにかかるさまざまな情報および国の高等教育政策にかかる動向などの社会への発信とともに、情報共有の推進を主目的として、今年度も「私立大学フォーラム（全4回）」を開催します。



お申し込みはこちら

※またはWEBで「私大フォーラム」と検索ください。

第1回（東京） 起業家精神と日本の教育～教育改革の一つの視点～

9月8日（木）18：00 明治大学

※無料、定員予約制（200名）

意見発表 野田 一夫氏 一般財団法人日本総合研究所名誉会長

小杉 俊哉氏 慶應義塾大学大学院 理工学研究科特任教授、
立命館大学大学院テクノロジー・マネジメント研究科客員教授

コーディネータ 池本 正純氏 専修大学経営学部教授

第2回（仙台） 政治なき教養は空虚であり、教養なき政治は盲目である

10月1日（土）13：00 東北学院大学

※無料、定員予約制（200名）

意見発表 村田 晃嗣氏 同志社大学法学部教授

渡部 純氏 明治学院大学法学部教授

小泉 良幸氏 関西大学法学部教授

コーディネータ 西村 枝美氏 関西大学法学部教授

第3回（大阪） 学問するよろこび

11月5日（土）13：00 関西大学

※無料、定員予約制（200名）

意見発表 千 宗守氏 茶道武者小路千家第14代家元

大島 まり氏 東京大学大学院情報学環教授

コーディネータ 本田 知宏氏 福岡大学工学部教授

渡部 直樹氏 慶應義塾常任理事

第4回（福岡） 大学入試～私立大学の改革～

12月10日（土）13：00 福岡大学

※無料、定員予約制（200名）

意見発表 沖 清豪氏 早稲田大学入試開発オフィス長、文学学術院教授

伊東 辰彦氏 国際基督教大学教養学部長

黒瀬 秀樹氏 福岡大学副学長

コーディネータ 松本 亮三氏 東海大学観光学部教授

※2016年6月24日現在

座談会 「発達障害学生の理解と支援」

特集 「大学における障害者受け入れ」

小特集 「大学のIR活動における取り組み」

表紙・大学点描 同志社女子大学 だいがくのたから 京都精華大学

クローズアップインタビュー：「杉本 健爾さん（書道家、美文字トレーナー）」

編集後記

◆グローバルな教育を、という大きな方針が動き始めている。一方で、イギリスのEU離脱や絶え間のないテロなど、グローバル化への反動ともいえるような状況が世界に広がっている。

だからこそ、今何が起きているのか、どうすればいいのかを考えるために、また人々に役立つ処方箋を導き出すためにも、ローカルにとどまった教育では限界があるというように考えてみたい。

18歳選挙権も同じことで、主権者教育というのは、ただ投票に行こうと促すだけではないのだということであろう。選挙権を持つということは、同時に自分の国の未来に責任を持つことでもある。大学はその責任の持ち方、そのための「世界の仕方」を提供できなければならぬと実感した。

世界はますます複雑になる。それは政治や経済だけでなく、文化や芸術の領域にまで及んでいる。いや、むしろその領域が複雑化しているからこそ、政治経済がより混沌としていくのかもしれない。その「世界の仕方」を提供する大学の

使命もまた大きい。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・日本大学芸術学部教授 兼 高聖雄）

◆この3月に大学設置基準が改正され、来年4月からSDが義務化されることとなった。

これは2015年4月施行のガバナンス改革（学校教育法改正）から考えると、矢継ぎ早の動きである。それだけ、大学をめぐる環境の厳しさと期待の現れとも考えることができる。

大学改革は、一人のリリーダーの力だけではなしえない。しかしリリーダーがいなければ、力をもたない。よって、SDによって教員を含めた職員的能力を上げるとともに、リリーダーになり得る人材の育成が必要である。これはまさしく私大が抱える課題である。

小特集では、今回の大学設置基準改正がわれわれに何を求め、期待しているのかを正しく理解し、各大学が取り組む際の指針になればと考え、企画した。4人の先生には、ご多忙の中を無理をお願いし、原稿をお寄せいただいたことに御礼を申し上げたい。

今回の企画により、本連盟加盟大学のSDが活性化され、大学改革が進み、各大学が魅

力ある大学になることを期待している。広報・情報部門会議（大学時報）委員・大正大学事務局長 平盛 聖樹）

◆2016リオデジャネイロオリンピックの開会式が8月5日に迫る。

私立大学在学学生・卒業生の参加ももちろん多く、大学では壮行会も開かれる。読者の皆さんが目注いている選手や競技は何だろうか。

折しも、本号インタビューは、同じ南半球で2000年に開催されたシドニーオリンピック女子マラソン金メダリストの高橋尚子さん。

座右の銘、当時のレース展開のお話、マラソンを起点とした現在の活動など、どれも大変興味深い。もちろん、こうした活躍の背景には、現役時代からの日々の目標達成に向けた努力、乗り越えた試練の数々があつてのことである。

「トウキョウ」という2020東京オリンピック招致決定の瞬間も、まだ記憶に新しい。4年後には、自国開催のオリンピックというまたとない機会がやってくる。今の中学生、高校生、大学生といいた若い選手たちの活躍も楽しみだ。（日本私立大学連盟事務局 権藤 和代）

[illegible]

第65卷369号（通卷383号）
平成28年7月20日発行

小林 依高	直 康	(法政大学社会学部教授) (上智大学総務局SGU事業推進室) (関西大学 広報課長)
赤井 宇三	弘 幸	(慶応義塾大学前大統領センター入課長) (慶應義塾大学法学部教授) (神戸女学院大学図書館課長補佐)
三井 兼片	泰 輔	(武蔵大学社会学部教授) (南山大学理工学部教授) (日本大学芸術学部教授)
片山 芳平	信 俊	(立命館大学総合企画部広報課長) (修武大学文化センター教授) (国学院大学女子大学人間教育学部教授)
鈴 鈴	聖	(大正大学事務局長) (早稲田大学広報室副室長) (日本私立大学連盟事務局)
金 鐘	和 聖	(日本私立大学連盟事務局) (日本私立大学連盟事務局) (日本私立大学連盟事務局)
斎 権	大 聖	

